



経済産業部

子どもたちが学ぶ理科と実社会を結びつけたキャリア教育
～あまくまり力ちゃん学校へ行こう～（社会人講師活用型教育支援プロジェクト）



子どもたちの理科離れが課題となっている昨今、子どもたちの理科や科学への好奇心をかき立てる取組「社会人講師活用型教育支援プロジェクト」が平成19年度から始まり、県内でも多くの企業の協力を得て子供達の学習意欲の向上に貢献しています。

事業概要

「社会人講師活用型教育支援プロジェクト」は平成19年度から始まり、平成20年度には沖縄を含め、全国十ヵ所の地域で実施されました。対象は、小学校5・6年生の理科授業で、小学校理科の学習指導要領に基づき、楽しくわかる授業を行うことで、子どもたちの理科や科学に対する興味・関心を引き出し、学習意欲を向上させることを目的に実施しています。沖縄では、この「社会人講師活用型教育支援プロジェクト」を「あまくまり力ちゃん学校へ行こうプロジェクト」と題し、財団法人沖縄県公衆衛生協会が実施しています。「あまくま」は沖縄の方言で「あちらこちら」、「リカ（リッカ）」は「行こう！」という意味です。各地域（あちらこちら）の理科（リカ）エキスパートの方々が、学校に行つて理科の授業に関わっている様子をあらわしています。

事業の実施体制

本事業は、県教育庁義務教育課 理科支援員コーディネーター、市町村教育委員会の他、平成20年度には沖縄の20企業の協力を得て、県内18校、83学級（受講児童数2,767人）でプログラム（授業案）を実施しました。



電化製品の電磁石を探してみよう



事業の成果と今後の方向性

平成19年度から実施してきた本年度は、協力企業の増加に伴い、授業実施数を増やすことができました。

子どもたちの感想

理科で習っていることは、世の中でとても役立ってるんだね。
身の回りに電磁石が使われている。家電製品を分解して意外だった。



企業講師の感想

理科の実験をとおして、やっていることは無駄にはならない、例え失敗でも、次のステップにつながるというメッセージを発信できたと思います。



教師の感想

たくさんの大人に会ってもらい、何を考え仕事をしているのか、その仕事が社会でどう役立っているのか知つてもいい、将来の夢、希望を考えるきっかけになったのではないか。
授業で学習した内容が、生活の中に関わっているという実感ができました。



事業ですが、教育現場、地域での事業に対する理解が深まり、「地域社会で子どもたちを育てていく」という意識が確実に根付いています。今後は、授業プログラムが効率的かつ効果的に実施で

きるよう、授業プログラムや実施方法、実施体制の改善を図ります。そして、沖縄の将来を担う子どもたちに、理科を学ぶ事の楽しさ、重要性を理解してもらいたいと考えています。

